

消化管内科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	過敏性腸症候群（IBS）の大腸粘膜微細変化は人工知能（AI：Artificial Intelligence）画像モデルにより検出可能かどうかの検討
研究機関名及び研究機関の長（試料・情報の管理責任者）	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	（担当科）消化管内科 （職名）助教 （氏名）田村泰弘
試料・情報の利用目的及び利用方法	〔利用目的〕 IBSの内視鏡診断を目的としています。 〔対象となる患者さん〕 2010年1月から2023年9月までに当院で大腸内視鏡検査を受けられて異常所見のなかった患者さん （健康診断で便潜血の診断が出た症状のない患者さん及び過敏性腸症候群（IBS）と診断された患者さん） 〔研究期間〕 研究実施承認日 ～ 2024年3月31日 〔利用方法〕 大腸内視鏡検査を施行された患者さんの画像を人工知能（AI）に学習させることによって、機械学習予測モデルを作成します。 そのモデルを使用して行ったIBSの診断結果と、現在の診断基準を用いて診断された結果と比較することで感度・特異度等の評価を行います。 研究計画書及び研究の方法に関する資料は希望があれば入手又は閲覧可能です。ご希望の際には、研究担当者へご連絡ください。 〔他の機関へ提供される場合はその方法〕 当院で施行された内視鏡画像のデータは個人の特定可能な情報は排除した状態で、愛知医科大学から中部大学工学部情報工学科にDVDとして提供し、解析を行います。
利用又は提供する試料・情報の項目	情報：大腸内視鏡画像およびカルテ情報としてのIBSの診断の有無等
試料・情報の提供を行う機関の名称及び	中部大学 学長 竹内芳美

その長の氏名	
提供する試料・情報の取得の方法	当院で施行された内視鏡検査データベースより取得します。
提供する試料・情報を用いる研究に係る研究機関名・研究責任者名	中部大学工学部情報工学科 教授 岩堀裕之
利用する者の範囲	中部大学工学部情報工学科 教授 岩堀裕之
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への情報の利用又は提供を希望しない方は、2023年12月31日までに電話等により下記問い合わせ先まで申し出てください。
問い合わせ先	愛知医科大学病院 消化管内科 担当者:(職名)助教 (氏名)田村泰弘 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311(内線 23480)